

## 関東支部「夏の学校」への学生参加費支援事業受給者報告書

電気化学会北陸支部支部長殿

平成27年 9月3日

貴支部からの補助をいただき、表記大会に参加しましたのでここに報告致します。

受給者氏名 (ふりがな) : 白石 有希 (しらいし ゆうき)

受給者所属 (学年) : 富山大学大学院 博士課程 生命融合科学教育部 生命電子電気化学研究室 (1年)

連絡先 (メールアドレス) : ebihadoku@gmail.com

電気化学会関東支部 H27 年度「夏の学校」が八王子セミナーハウス (東京都八王子市) にて、8月26日(木)~27(金)の2日間、参加9大学、参加者75名(内学生64名)にて開催。

大会運営は神奈川大学松本研究室がご担当され、参加者は昨年より若干増加していた。我々は電気化学会北陸支部から支援を受け、金沢大学、及富山大学から各1名ずつ関東支部との研修・交流のため本セミナーへと参加した。1日目はまず、鶴見大学歯学部・里村一人先生による招待講演が行われ、タイトルは「医学会からみた医工連携-光・電気化学に期待すること」であった。里村先生のこれまでの取り組みや、医工連携を推進する立場からの貴重なご意見を聞くことができ、中でもバイオとエレクトロニクスに関して臨床というフィールドにおいて注視する点などを、デバイス開発にあたっての新しい視点から講演された。次に学生によるポスター発表会の時間が設けられ、我々も日頃の研究成果を発表した。発表会では、教職員のみならず、学生間でのディスカッションも非常に活発に行われ、様々な意見交換を行うことができた。ポスター発表後は招待講演2として、東京工業大学の大河内美奈先生による「食物アレルギーに関与する抗体エピトープ解析」というテーマの講演を聴講した。電気による生体の制御やマイクロデバイスの開発についてご講演いただき、会場からの多くの質問、特に学生からの活発な質問に対して、時間いっぱいディスカッションすることができた。発表後は夏の学校の恒例となっている懇親会が開かれ、学生・教職員一体となってお酒を酌み交わし、研究を通した様々な意見交換や、ときには、くだけた話で盛り上がり、大いに親睦を深めることができた。2日目は、筑波大学の辻村清也先生による講演からスタートした。タイトルは「酵素電池開発～異分野交流の面白さ」で、生体分子である酵素を電極に応用するための工夫や苦労など広い分野でお話しいただいた。その中でも印象的だったのは、研究において様々な人々との出会いがあり、それを如何に自分の研究と結び付けるかという先生自身の経験談から導かれるメッセージだった。そして最後の招待講演4として東京大学の小森喜久夫先生による「医療・環境評価系バイオ圧政デバイス開発を目指して」という講演を聴講した。先生は辻村先生と同じく炭素材料の開発や、バイオエレクトロニクスに関して広くご講演いただき、生命と電気化学との深い結びつきについてご講演いただいた。バイオアッセイを基本とし、電気化学的アプローチが如何に生体情報をより効率的に引き出せるか、大変興味深かった。最後にポスター発表の表彰式では私と同様に北陸支部から支援を受けて夏の学校に参加した、金沢大学の稲葉さんが優秀ポスター賞を受賞し、喜びの声と共に会場全体に北陸支部からお礼の言葉を述べ、閉会となった。

今回の夏の学校ではバイオとエレクトロニクスを強く意識させられるような講演が多く、私もバイオエレクトロニクスを研究する学生として大変勉強になり、励まされる思いだった。また、学術的な交流だけでなく、学生、教員、そして企業や、公的機関の方々と一体となって作る本会の魅力を十分堪能することができたと思う。この機会が今後の電気化学会北陸支部にとって良いコネクションを築ききっかけになったと感じた。ぜひ北陸支部でも学生主導の会を企画運営していければと考えている。

最後に、「夏の学校」への参加費支援をいただき、深く感謝いたします。

